

# 障がい者と共に

2026年 新しい年を迎えて  
平和を願いつつ、共に迎える新しい年  
～共に支えあい、歩む一年～

皆さまにとって、よき一年となりますように  
本年もよろしくお願いいたします



第 113 号

社会福祉法人  
キリスト者奉仕会  
大牟田市新勝立町3丁目5番地15  
大牟田 恵愛園  
恵愛ワークセンター  
ハーツ  
たんぼぼ  
つくしんぼ  
ひかりの森

## 新年のご挨拶

理事長 叶 義文

新しい年を迎えて、いかががお過ごしでしょうか。皆さまのご支援・ご協力により、法人設立して四三年が経とうとしております。

昨年は、三月より新たに放課後等デイサービス(名称:ひかりの森)をスタートさせ、障がいのある小さな子どもたちが元気に通ってきています。四月には三池の地で定員五名のグループホーム、「ハーツ」では障がい児の相談支援、そして、一〇月からは「たんぼぼ」で「就労選択支援」を始めました。

今年、恵愛ワークセンター、大牟田恵愛園クリーニング部門、つくしんぼ事務所が、新勝立町に移転します。いよいよ「山の上から地域へ」の最終段階です。

二〇二六年二月二日(土)は、法人主催「ふれあい講演会」を開催します。日本障害者協議会の藤井克徳代表の講演、「誰もがその人らしく暮らしていける大牟田」をめざしてパネルディスカッションを行います。是非、ご予定ください。

今年が皆さまにとって、よき一年となることを心よりお祈りいたします。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。  
聖書:「何事も、愛をもって行いなさい。」

(コリント 一 一六:一四)

社会福祉法人 キリスト者奉仕会  
大牟田恵愛園 (障害者支援施設)  
ひかりの森 (放課後等デイサービス)  
恵愛ワークセンター・たんぼぼ  
支援センター・ヘルパーステーション「ハーツ」  
つくしんぼ (グループホーム)

理事長・施設長 叶 義文  
施設長 谷山 恵一  
所長 古賀 敬之  
管理者 富安 妙子  
職員一同 より

※今年より、年賀状に代えて本機関誌にて新年のごあいさつとさせていただきます。



地域移転完成予想(イメージ)図

左側が大牟田恵愛園クリーニング、つくしんぼ事務所、ひかりの森、右側は恵愛ワークセンター

# 法人の地域展開を振り返る いよいよ最終ステージへ

理事長 叶 義文

一九八三年に山の上に建てられた重度身体障害者授産施設「大牟田恵愛園」(当初入所定員五〇人)ですが、様々な議論を行う中、やはり地域のただ中で、地域の方々の出会いの中で歩んでいきたいという願いのもと「山の上から地域へ」というテーマに取り組んできました。

思い起こしてみると、第一ステージは、大牟田市の中心地で地域生活支援センター「ハーツ」とヘルパーステーション「ハーツ」の立ち上げでした。地域で暮らす障がい者との出会いを大切に、地域生活・自立を支えていくという取り組みでした。

第二ステージは、たんぼぼ・就労の場の地域展開でした。大牟田市の八本町に事業所を建設し、弁当・レストラン事業、一般就労に向けた支援等を展開して、働くことを希望する障がいのある人たちに支援していく場として、その後、就労定着支援、今年の一〇月から

は、就労選択支援にも取り組んでいます。

第三ステージは、地域におけるグループホーム展開です。施設入所から地域へ、また、親亡き後のことを考え、親御さんが元気なうちに地域での暮らしが実現できるように、現在八ヶ所、五〇名弱の人がグループホームで暮らしています。その人らしく、その人の意思を尊重する場として、グループホームをさらに充実できるように取り組んでいます。

第四ステージは、二〇一七年、念願の「山の上から地域へ」の取り組みとして、新勝立町へ大牟田恵愛園の入所部門と重度障がい者の生活支援・活動の場を移転しました。入所定員を四〇名から三三名に減らし、全室個室で四ユニットに分け、出来るだけプライバシーを尊重し、その人らしく、生活の場の充実を図りました。また、リハビリ室を設け、本人の希望でリハビリテーションの充実にも取

り組んでいます。

そして、いよいよ第五ステージ、「山の上から地域へ」の最終ステージです。新勝立町の大牟田恵愛園の横の敷地を活用して、恵愛ワークセンター(通所の就労支援の場)、大牟田恵愛園のクリーニング部門、つくしんぼ(グループホーム)の拠点事務所、そしてひかりの森(放課後等デイサービス)の活動の場を新設します。国からの補助金交付も認められ、念願の一步を踏み出す運びとなりました。地域の中でより開かれた活動をめざすこの移転は、いよいよ最終ステージとなり、私たち法人にとって大きな前進です。

今後、入札に向けて取り組んでいくこととなりますが、国からの補助金は事業費の一部に過ぎず、物価上昇による建築費の大幅な増額が予想され、多額の自己資金が必要になります。地域に開かれた新しい拠点の実現に向けて、引き続き皆さまのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



### 就労支援における意思決定支援「就労選択支援」

たんぼば統括責任者 永江 賢

二〇二五年一〇月から、障害者総合支援法に基づく新たな障害福祉サービスとして「就労選択支援」が全国で始まりました。たんぼぼでも同月より事業を開始し、まずは新たに就労継続支援B型の利用を希望される方と、特別支援学校の生徒さんを中心に支援を行っています。制度上も、二〇二五年一〇月以降は就労継続支援B型を利用申請する前に、原則として就労選択支援を利用することとされています。簡単に言えば、就労選択支援は「このように働くか」を本人が自分で選べるようにするための、就労支援における意思決定支援のサービスです。

就労選択支援では、市町村が定める支給決定期間(原則一か月、必要に応じて二か月)の中で、本人・家族・学校・相談支援事業所など関係機関から情報を集め、生活歴や強み、困りごと、就労に向けたニーズを整理します。そのうえで、たんぼぼではおおむね二週間程度の作業体験・作業観察を行い、実際の働き方に近い場面で、得意な作業やつまづきやすい場面、必要な配慮などを丁寧に見立てていきます。こうして得られた情報をまとめたものが「就労アセスメント」です。作成したアセスメントは、本人・家

族・学校・相談支援事業所・就労系事業所などが集まる「多機関連携会議(ケース会議)」で共有します。この場では結果を一方的に伝えるのではなく、就労継続支援A型・B型、就労移行支援、生活介護など、地域にどのような選択肢(社会資源)があるのかを具体的に示しながら、「自分はこのように働きたいか」「どんなペース・環境なら続けられそうか」を一緒に考えます。必要に応じて、ハローワークや関係機関との連絡調整もここからつないでいきます。

重要な点は、就労選択支援事業所が「その人に合う就労先を決めてあげられる場」ではない、ということです。就労選択支援は、あくまで就労移行支援や就労継続支援、一般就労などを「適切に選択するための支援」と位置付けられており、事業所には中立的な立場でのアセスメントと情報提供が求められています。たんぼぼでも、本人がまだ言葉にできていないニーズを一緒に掘り起こし、観察に基づく客観的な評価と地域の働き方に関する情報を組み合わせることで、「自分で選んだ」と実感できる進路決定を目指しています。

特別支援学校の生徒さんにとって、就労選択支援は大きな意味を持

ちます。特別支援学校高等部では三年生に限らず、在学中に複数回実施できること、また職場実習のタイミングでも就労選択支援を実施できるととされています。たんぼぼでは現在、大牟田特別支援学校と連携し、高校在学中の早い段階から卒業後を見据えたアセスメントとケース会議を重ねることで、卒業時に本人の希望と特性に合った働き方を選びやすくなる仕組みづくりを進めています。

また、今回の就労選択支援を実施するに先立ち、たんぼぼでは二〇二五年七月に「就労選択支援検討委員会」を立ち上げました。この委員会は、大牟田市内で就労選択支援を行うすべての事業所に加え、ナカポツ、相談支援事業所、病院、児童養護施設、そして特別支援学校の先生方など、多様な機関が一堂に会する場です。ここでは、大牟田という一つの地域の中で就労選択支援をどのように運用していくかをテーマに、「選択支援を行ううえで何が重要か」「どのような連携体制があれば本人の選択が支えられるか」「アセスメントの様式をどの程度共通化・統一できるか」などを重ねて議論してきました。その結果として、大牟田独自のアセスメント様式の構築を進めており、将来的には、どの就労選択支援事業所がアセスメントを行っても、同じ目線・同じ項目で評価できる体制を整えることを目標としています。

この検討委員会では、選択支援の運用だけでなく、大牟田における地域課題も浮かび上がってきました。例えば、就労継続支援B型事業所の空き状況がわかりにくく、「どこに空きがあるか」で進路が決まりやすい現状があり、その結果として、本人の適性や希望よりも「空いている事業所」に送り出さざるを得ないケースが生じていることが共有されました。また、普通高校や児童養護施設にも障害者手帳を持つ方がいる一方で、福祉サービスや相談支援へつながるルートが十分に整っておらず、進路選択の幅が非常に狭くなってしまっている現状も明らかになりました。さらに、特別支援学校の先生方からは福祉に関する知識や情報へのニーズが強く示されており、今後、教育と福祉が一緒に学び合い、連携する機会を増やしていく必要性が確認されています。

就労選択支援をうまく活用することで、「何となくB型」周りに勧められたからこの進路」という選び方ではなく、一人ひとりが自分のペースや体調、将来像に合った働き方を考え、選び取っていきけるようになります。たんぼぼとしても、就労選択支援検討委員会での議論や大牟田独自のアセスメント様式づくりを通じて、地域の関係機関と連携しながら、この新しい仕組みを活かし、より多くの方の「自分らしい働き方」の実現を支えていきたいと考えています。

二〇二五年日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会  
夏期職員研修会に参加して「神はいつも働いておられる」

法人チャプレン 眞柄 光久

私は大牟田市の社会福祉法人キリスト者奉仕会でチャプレンをしています。毎週月曜日の朝、この法人に属する三つの施設でキリスト教に關するお話をしています。少しではあります、聞いておられる方々の中にクリスチャンの方々がおられます。

今回の研修会の中でも、閉会時に、「殺すな」という題で奨励をいたしました。神は十戒という戒めをイスラエルの民に与えられました。その中に「殺してはならない」という戒めがあります。しかし、「殺し」はいまだになくなりません。おそらく、人間が生きている限り「殺し」は続くのではないのでしょうか。

そういう中で、この夏期職員研修会を開催する意味はどこにあるのだろうと考えていました。私は、チャプレンなので、人間の目での視点では物事を考えないようにしています。不可能に近いですが、すべてのものを神の目で見たり、聞いたり、考えてみようとしています。その土台は聖書であり、祈りです。「この研修会には、神から見ると、どのような見がありますか」と

祈ります。神と人とがコミュニケーションをとることができるのは祈りを通してでしかできません。祈り続けて、神からいただいた答えが「そこにいなさい」という答えでした。「そこにいるために、私はお前をそこに遣わした。なにかをするためでなく、なにかになるためでなく、ただ、そこにいるために私はお前を遣わした。」

とても分かりやすい答えであると同時に、とても分かりにくい答えです。研修会の閉会時に、講壇の上で私は「殺すな」ということについての奨励をしました。私の奨励で世界に「殺すな」が一斉に止まり、なくなるわけではありません。でも、私は神に「そこにいなさい」といわれ、多くの方々の前で、「殺すな」の奨励をしました。

私がなぜ、このように研修会に遣わされて、奨励をしたのかはわかりようがありません。ただ、わかるのは、神に「そこにいなさい」といわれ、私がそこにいて、そこに集まった人たちもみんないて、神もそこにおられたということですね。研修会というのは神とともにいることなのです。

法人虐待防止・身体拘束研修会を終えて

法人研修委員 東 侑希

障害者虐待防止法の施行により、障がい者に対する虐待防止や早期発見、適切な対応は、法人にとつて重要な責務となっております。当法人において、二〇二五年度の法人虐待防止・身体拘束研修会は法人全職員を対象とし、一四〇名程度の参加となりました。今年度の研修はパネルディスカッションとグループワークを組み合わせた研修を実施しました。始めにパネルディスカッションで各事業所より、①虐待の芽がどうして起こるのか②どうしたら虐待や虐待の芽が起らないように出来るのか④身体拘束についてをテーマに行いました。入所・就労・地域での生活場面における発表で、各事業所における共通した視点として、「本人の意思決定を尊重する支援」、「職員間での情報共有と相談できる環境整備」の必要性などが発表されました。パネルディスカッション後に、少人数のグループに分かれ、参加者それぞれ事例を三つずつ挙げ、事例がどの虐待類型(身体的、心理的、性的、経済的、放置放任)

に該当するかを検討し意見交換を行いました。実際の事例をもとに「どのような対応が望ましかったか」「今後、どの様に支援の工夫を行っていくか」などの意見があり、様々な意見交換や具体的な支援方法の提案が活発に行われ職員同士での気づきが多く生まれました。今回の研修を通じて職員一人ひとりが業務に携わる中で、声掛けや適切な対応をする事で虐待の芽を摘む事に繋がる事を再認識しました。又、パネルディスカッションやグループワークを通じて、現場での判断力や対応力を高めるだけでなく、職員間の情報共有や相談の重要性を改めて再確認する事が出来たと思われまます。法人研修委員としても、定期的に様々な研修会を実施し、研修で得た学びを日常業務に生かして頂けるよう努めて参りたいと思います。



### 第三九回恵愛まつり

総務委員長 中村留美子

二〇二五年一〇月一八日土曜日に第三九回恵愛まつりが開催されました。

直前までなんとかもつていた天気もポツポツと雨が落ちてきてしまい、開会式典は外のステージから急遽テント内に変更となつてしまいました。式典後にオーブニングを飾ってくださいましたヨネがわらバンドは、雨に濡れながらも外のステージで熱いパフォーマンスを披露し、観客の皆さんをおおいに沸かせてくださいました。その後も小降りながら雨は続いたため、玄関前の屋根の下にステージを移しイベントは続けられました。

屋内では恒例となつた済生会病院の青空健康チェックや手話カフェ、人気のブルーノート、ハンドマッサーには女性のお客様が多かつたようです。福祉施設からの出店では、さきり織や手作り小物類、おいしい焼き菓子などが販売されました。

屋外では、救急車と消防車が来て、隊員の皆さんから直接お話を聞きながら実際に乗ることができました。たくさんさんのキッチンカーでは、おいしいそうなランチやスイーツを頬張るお客様の姿が見られました。

イベントの最後を飾つたのは大牟

田奏友会の演奏でした。軽快な音楽で雨を忘れるほどの盛り上がりを見せました。

今年の恵愛まつりは、雨にもかかわらず多くのお客様が来場して下さいました。ボランティアの皆さんには今年も接客や裏方だけではなく、介護スタッフとしても協力していただきました。そして、送迎バスが発車するギリギリまで片付けをしていたので、「また来たいです」と笑顔で帰って行かれました。お天気にはちょっと恵まれなかつたけど、人にはとても恵まれたお祭りでした。来場していただいたお客様、ステージで盛り上げてくださった出演者の皆様、出店していただいた皆様、お祭りを支えてくださったボランティアの皆様、本当にありがとうございます。

そして来年は、記念すべき第四〇回目の節目を迎えます。地域の歴史と共に歩んできた恵愛まつりが、更に多くの人々に愛され、未来へとつながる行事となることを願つてやみません。

最後に、多忙な業務の合間を縫つてまつりの準備から翌週の片づけまで頑張りをまわつた行事委員他スタッフの皆さん、お疲れさまでした!!

### 法人クリスマス祝会が開催されました

法人バプテスト委員 大里

奏

『その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日夕デの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけたのである。これがあなたがたへのしるしである。』すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に敵う人あれ。』ルカによる福音書二章八節〜一四節

一二月六日土曜日に法人クリスマス祝会を開催いたしました。今年も総勢二〇〇名を超え、会場がにぎやかで温かい雰囲気になりました。

第一部の礼拝では「あなたがたのために生まれた」という題のもと、南小倉バプテスト教会の谷本仰牧師よりメッセージを頂きました。星の光の不思議を導入に、赤子の姿で

弱く小さな存在としてこの世にいられた救い主の姿が示されました。泣くことしかできない赤子を最初に迎えたのは、羊飼いたち。社会から周縁に置かれがちな人々が、最初に喜びに招かれたという事実は、クリスマスが誰の為にあるのかを改めて問いかけるものでした。最後にクリスマスを祝う星やツリーの輝きの輪から洩れている、あなたの身近な存在はいつたいたれ。そこにこそ、クリスマスの本当の喜びがあるよ。神はそこにこそ、共におられるよ、と語られました。

第二部では谷本牧師によるミニコンサートが開催されました。ヴァイオリンの生演奏や、トーク・歌を交えたプログラムが披露され、素敵な音色に皆さん聴き入られていました。続いて行われた「クリスマススレット」では、ルーレットに表示される四名の施設長とチャプレンのユニークな写真が会場の笑いを誘い、終始和やかな空気が広がりました。

最後は各事業所の様子をまとめたスライドショーで思い出のシーンが次々と流れ、楽しいクリスマスの一と時となりました。



# 大牟田恵愛園

## 大切に思っていること

施設入所責任者 渡辺 信一

### 01 利用者の胃ろう体制を更に充実する

入所では、医療部と連携をして、胃ろうを造設された利用者さんへの胃ろう対応が行えるよう、看護師を除く、介護福祉士および職員の胃ろう、喀痰吸引の資格取得を奨励しています。現在資格保有者は、看護師四名を除く、職員八名がすでに取得。今後も職員数名が資格取得を目指して研修中です。このことによって、人員体制を整備し、それまでは胃ろうが必要となった利用者さんは退所せざるを得ませんでしたが、受け入れ対応をすることが可能となつていきます。施設内では、胃ろうを必要とする利用者さんは三名、そのうち二名は入院中です。しかし、たとえ対象者がお一人であつても、医療介護の側面から安全で安心できる総合支援ケアを

お届けするべく、さらに基本の胃ろう所作の確認と、医療介護技術の研鑽を日々努めています。

### 02 利用者の主体を尊重し自己選択、自己の意志決定を支援する

入所では、障がいがあつてもなくとも一人の利用者さんを憲法が定める基本的人権と尊厳ある人格を持った、大切な人間としてとらえて支援を行うために、権利擁護の立場から考えます。具体的には、利用者さん自身が人生の暮らしの選択肢を、また自分がどのようなに人生を豊かに送りたいのか、なにを大切にしていきたいのかを丁寧に聞き取ろうと努めます。その場では職員は、利用者さんがこれまで歩んで来られた差別や抑圧を受けてきた歴史や、つねに障がいゆえに諦めさせられてきた歴史の重さを知らされ、学び理解しようと努めます。それらの上で、利用者さん自身が主体的に選び取り、自分の生き方をその都度決定していくプロセスを管理統治する者としてではなく、あらゆるリスクを見据え・承知していくプランをご本人を交えて検討を重ね、いきる強さ・弱さ矛盾をつねに抱えた、同じ人間として

伴走する支援を心がけています。

### 03 リハビリ・医療部とのチーム連携と強化をはかる

入所では職員同士の信頼関係、利用者との間の信頼関係に立つ介護に加えて、とりわけリハビリ・医療チームとの連携による総合的な支援を行っています。この年度下半期より、新たに理学療法士・作業療法士をお迎えしました。それによって、利用者さん自身が持つ身体機能の維持、痛みや症状の緩和、軽減をはかり、より良い安全安心な入所生活を送ることができるようにと心がけています。ケース事例の実践を重ねることによって職員自身も自らの経験値を根拠とする決めつけ等を捉え直し、学ぶことの大切さを知り、眼の前におられる利用者さん自身のニーズにしっかりと向き合う契機となつていきます。

### 04 ショートステイ、見学、実習生の受け入れを更にはかる

入所では左記の通り、受け入れを推奨しています。これは事業所としての必須事項のみならず、外部からの訪問者や実習生たちに

対して門戸を開き、いっしょに大切な時間を過ごすことによって、私たち職員自身が、自分たちの働きを率直に紹介することができるようになります。多少の準備に伴う煩雑さはあるかも知れませんが、職員自身がいききた出会いや学びが与えられて、新しい気づきをいただくことができるからです。この出会いがきっかけとなつて、その後将来にわたる、利用者さんの施設入所、職員採用、ご家族との信頼関係づくり、同業・異業種の方々との連携につながっている事例があることは言うまでもありません。

おわりに、私たちの入所の働きのために、いっそうのご理解・ご支援、お祈りを賜りますように謹んでお願い申し上げます。



# 恵愛ワークセンター

## 楽しかった一泊旅行

委託事業責任者 三橋 伸吾

恵愛ワークセンターでは二月八日(土)〜九日(日)、利用者さんも待ちに待った二年に一度の一泊旅行に行きました。今回は大分県湯布院・別府の旅を企画。利用者二八名、職員二三名総勢四二名で六台の車に分乗して出発しました。

一日目の午前中は湯布院湯の坪街道を散策しました。JR湯布院駅から伸びる街道沿いにはたくさんのおいしい飲食店や土産物店が軒を連ねており、五つのグループに別れ、お土産購入や食べ歩きをして楽しみました。中でも湯布院フーラルビレッジは、映画ハリーポッターの撮影地にも採用されたイギリスのコツウエルズ地方の街並みが再現されたミニテーマパークで、歩くだけでも楽しい異次元の空間でした。また世界中で大人気のスヌーピーやミッフィーのお店もあり、可愛いグッズやキャラクターの形をしたスライツなど、どれも欲しくなるような魅

力あるお土産がいっぱいありました。昼食は鶏を翅につけ季節の野菜と一緒ににせいる蒸にした御膳に舌鼓を打ちました。夜の宴会では利用者さんに乾杯の音頭をとっていただき、大皿に盛りつけた季節の料理を楽しみました。また余興ではビンゴゲームで大いに盛り上がりました。二次会にも多くの利用者の皆さんが参加され、おいしいお酒やソフトドリンクを片手に語り合い楽しいひと時を過ごしました。

二日目は別府大分マリンパレス水族館うみたまごを観覧しました。イルカのショーでは車いすの方用のスペースがきちんと準備されており、特等席でダイナミックで可愛いイルカの芸を楽しみました。またもう一つの楽しみはやはりお土産選びで、皆さんあれこれと悩みながら買いたいものを楽しんでおられました。昼食は別府交通センターにて団子汁定食でお腹を満たし、最後のお土産を買って帰路につきましました。二日間を通して天候にも恵まれ、とても思い出に残る一泊旅行となりました。



## 今年度上半期のパン事業の取り組み及び成果について

パン事業 藤間千代志

恵愛ワークセンターでは、利用者さんと共にパン事業をおこなっています。利用者さんには施設内にてパン製造作業をおこなって頂いています。パンの製造については毎日、約七百個作っており、多い時では千個ものパンを製造しています。販売については、移動販売にて、職員が企業・学校・病院・施設等さまざまな所で販売をしています。その中で、今回は、販売関係の報告をしたいと思います。

まず、七月より誠修高校の販売がスタート(夏休みがある為、販売は一週間程度でした。毎日のパン販売で、生徒さんに飽きられないようにするにはどうしたらいいか。価格帯は大丈夫か等の課題点、生徒さんから割り箸が欲しい・のど飴が欲しい・ゼリーやヨーグルトが欲しい等の要望も入ります。また、慣れない学校の制服や靴等の受注業務に販売員は悪戦苦闘の毎日です。このような課題を一つずつ出来ることから解決し安定した売り上げを築けています。

九月には、法人ラインにてクーポン発行をおこない、販売強化に努めました。「お客様に新しいサービス・さらその認知を」との考えから、ライン登録の案内ポップを作成し各市役所・学校すべての販売先で告知活動を行いました。市役所では昼休みの限られた時間で登録される方、レジで時間がとられるので、登録をされない方など様々でした。学校

では基本生徒は携帯電話が禁止の為、先生だけの登録ほかの販売先でも時間がとれる方は「クーポンがもらえるなら登録するよ」「さらそのラインはないと？」などの意見も頂き、これからの課題も見つかりました。

定期販売以外では、沢山のイベント販売に参加し、いろんな所で注文を頂きました。小学生のドッチボール大会では九州各地から五十チーム参加の昼ご飯とお土産で使用してもらい、ホンダカーズ様各地区の公民館イベントでは、「去年美味しかったので今年もお願いします。」と毎年注文を頂くようになりました。伝習館高校の文化祭や済生会フェア(済生会病院でおこなわれたイベント)は去年に引き続き参加させて頂き、二カ所とも去年は昼には完売だったので今回は去年以上のパンを持っていき完売しました。学校・病院からは「来年もお願いします」と早くも依頼されました。法人内の行事では、恵愛まつりにて、メロンパン三百個販売に挑戦しましたが完売。今年のイベント販売では、お客さんをはじめ多くの方々にさらそのパンを購入して頂いたおかげで、パンはすべて完売しています。

さらそでは「利用者さんと職員」製造と販売とが、協力することで事業が成り立っています。今年は、恵愛ワークセンターの移転が始まります。より一層、事業の取り組みを強化していきたいと思えます。チームさらそ、団結の恵愛ワークセンターで頑張っていくので皆さん今後とも、よろしくお願います。



# 『地域活動支援センター1型』を通して、大切に目指すもの

相談支援専門員 富安 寿史

相談支援事業所ハーツが行う「地域活動支援センター1型(地活1型)」は、障がいのある人が安心して通えて、話せて、地域とつながれる場所です。ハーツでは、手作りアイスクリーム、コスモス園見学、料理作り、おしゃべり、イベント参加などの「活動の場」と、生活の相談ができる「相談の場」が同じ場所にあります。そのため、利用者は気軽に通いながら、困ったことや不安をその場で職員に相談できる特徴(強み)ある場所でもあります。地活1型のいちばん大きな役割は、やはり「安心できる居場所」と「相談できる窓口」をセットで提供できることです。家にこもりがちな人や外出が不安な人でも、「とりあえず来られる場所」があることで生活のリズムが整い、人とのつながりも自然に生まれます。また、活動の中で利用者の

変化にも気づく機会が増え、問題が大きくなる前にサポートにつながることもできます。ハーツでの地活1型で大切にしていることは「地域で困らずに暮らすための支えになる場所」です。地活1型を通して、障がいへの理解が進み、利用者が地域の一員として自然に受け入れられるきっかけにもなります。さらに、専門職が常駐しているため、福祉サービスの利用方法、生活上の悩み、家族の心配なども丁寧に相談できます。ハーツが地活1型で目指すものは①安心して行ける居場所、②気軽に相談できる窓口、③地域とのかけ橋、④利用者の生活をそつと支えるサポーター、として機能し、障がいのある人が自分らしく地域で暮らし続けるための大切な「よりどころ」になりたいと考えています。



## 地域生活を支えて

### 「三六五日ヘルパー」

サービス提供責任者 城野 窓香

「おはようございます。体調はどうですか?」と玄関の扉を開け元気よくヘルパーが声をかけます。Sさん(身体障がい者)は車椅子を使用しながら大牟田の市営団地で三六五日毎日ヘルパーを利用し、一人暮らしをされている方です。朝は日中事業所に通所する為の身支度をする為に一時間利用され、夕方は事業所から帰宅してからの一時間利用です。二時半からは就寝介助の為三〇分利用されています。その他にも週一回は買物支援し、月に一度は通院にヘルパーと一緒に行かれています。月平均九〇時間利用されています。その中でもSさんは夕方のヘルパーが来る時間を楽しみに生活されています。それは何故かと言うとヘルパーと一緒に自分の夕食を作るからです。自分で本を見て考えたり、ヘルパーからの提案でメニュー決めたりと毎日されています。足や手に障がいがあり、細かい作業は難しいですが包丁を使いネギを切ったり、みそ汁の味噌をこしたりと積極的に調理をされます。本人では難しいところはヘルパーが手伝いながら料理を一緒に完成さ

せます。料理が出来上がった時のSさんの顔はキラキラしています。「おいしそうですね!」味見をして「味がしつかりついていて美味しい!」とよく言っております。利用者の笑顔はヘルパーとしては日々の励みになります。しかし、訪問介護事業所全体にも言える事だと思いますが、ヘルパーの高齢化と人手不足は深刻です。私たちヘルパーも色々な方とSさんに関わって欲しいと思っておりますが、一週間に同じヘルパーが何度も訪問しています。Sさんが満足されている支援を出来ているかは不明ですが、この生活をSさんが続けたいと思っております。限り三〇代〜七〇代のヘルパーで支援をやっていきたいです。地域生活を支えるヘルパー仲間絶賛募集中です!



障害者就労・自立支援センター

「たんぽぽ」

わいわいSPOTバス  
ハイクに行きました！

就労移行支援事業責任者代行

ヴァンデンブリック典子

一〇月四日(土)、福岡県東区にある、マリナーワールド海の中道へ在職者・利用者一八名、職員三名で行ってきました。

五月の茶話会の時に、在職者の皆さんからバスハイクで行きたい場所をお聞きし、一番希望が多かった場所、バスハイクのお知らせをした際は、「楽しみです！」「絶対参加します！」と早くから楽しみにされていました。

当日はあいにく土砂降りでしたが、水族館は室内のため大変快適で予想していたより来客数も少なく外洋大水槽での「鯛のショー」「イルカ・アシカショー」「ペンギンパレード」などゆったりと泳ぐ魚に癒され、ショーを楽しむことが出来ました。

職場とは違う雰囲気の中、行きのバスの中ではお互いの近況を話し

たり、推しの話で盛り上がったりと活発な交流も見られました。

また普段の定着支援の面談では、なかなか時間が長く取れず、じっくり話せない方も、職員としっかり話す機会にもなりました。

館内のレストランやお土産コーナーでは、皆さん大変楽しそうに、また小さい子ども連れのご家族に席を譲ったりと働いていく中で、経験され身につかれた優しさや社会性を知ることが出来、職員一同ほっこりと優しい気持ちにもなりました。

就職後の余暇活動の一つとして「わいわいSPOT」があり、毎回楽しみにされている方も多い行事です。

「次は忘年会ですか？新年会ですか？」と次の集まりも期待値大な意見も聞かれました。次回の内容も皆さんの希望に出来るだけ沿えるよう、また楽しいものになるよう企画していきたいです。



たんぽぽ就労継続支援  
事業現在の取り組み

弁当レストラン責任者 起汐 孝昌

たんぽぽ就労継続支援事業(弁当・レストラン)では現在二〇代から七〇代の利用者の方達が協力しながら毎日の作業に取り組みされています。一つの作業を習熟された利用者、片手が不自由でもいろんな作業に挑戦している利用者、自身の体調と向き合いながら体力のギリギリまで働くことを止めない利用者、結婚して仕事と家庭と子育てを両立させながら調理と配達二刀流の利用者など、個性豊かな面々が一人一人の得意な作業を分担して自分の役割として行うことで弁当や給食、ドレッシング、レストランメニューなどの円滑な提供に繋がっています。

今年一年を振り返ると、米の高騰、食材、調味料等の値上げ、プラスチック製品などの備品までも値上げで原材料費などが高騰し、お客様には誠に申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、七月から弁当とレストランメニューを値上げすることになり、レストランではこれまで無料でサービスをしていたランチ後のコーヒーを一〇〇円頂くことになりました。

事業を健全に運営、継続していく上で、商品を適正な価格で販売し、価格転嫁に取り組み目標予算を達成する必要があります。一方でお客様のニーズを把握し、競合他社に負けない商品と付加価値的なサービスの提供が必要だと感じています。

そよかせの会議の中で生まれた企画、そよかせ三店合同企画スタンプラリー「三店でお食事してドレッシングをもらおう！」は、レストランそよかせ(たんぽぽ内)、そよかせ食堂(天領病院内、市役所内)の大牟田市内に三店舗の飲食ができる店があることを宣伝、アピールすることを目的として一〇月四日から二八日までの約一ヶ月間開催しました。延べ六〇名以上のお客様がスタンプラリーに参加され、ドレッシングを五〇数本プレゼントする太っ腹企画となりました。数名のお客様からは「人参ドレッシングは食べたことがないから、今回は人参の方をお願いします」という声も上がっており、ドレッシングの宣伝にもなり、今後のドレッシングの売り上げ増を期待しています。これからも販売向上に向けた楽しい企画を考えようと思います。

二〇二六年も誰もが働きやすい環境で作業ができるように努めます。



# つくしんぼ

## つくしんぼ三池 開所しました！

事業責任者 森 圭弘

二〇二五年四月一日に『つくしんぼ三池』が開所致しました。土地を譲渡して下さった八尋様・藤木様のおかげで重度の障がいのある方のグループホーム建設を決めました。しかし、物価高騰や建築材料がなかなか入って来ない中、計画より少し遅れましたが、晴れて開所する運びとなりました。

四月から早いもので九ヶ月が過ぎました。別のグループホームから引越をされた方、ご実家よりグループホームへ引越しされた方、それぞれの想いや生活する中で感じられることの違いはあるかと思えます。今回、三池にお住まいの方より二名の方へインタビューをさせていただきました。(お名前はイニシャルで記載しています。)

### Q1

三池で生活をされていますが、どうですか？

〇さん：(ハニカミながら)ふつう…。

Kさん：(〇さんにつられるように)普通。

### Q2

ご飯は美味しいですか？

〇さん：(ハニカミながら)おいしいです。

Kさん：(〇さんを見ながら)おいしい。

### Q3

三池に来て、生活してみても良かったですか？

〇さん：(最初は首を傾げながら、少し考えて)ふつう。(言われた時は笑顔でした)

Kさん：良かった。

最後に三池にこれからも住みたいと思えますか？と尋ねるとお二人とも笑顔で「はい」と、言わせてしまう様な形になってしまいました。が「嫌ではない」とその後お話をされています。

今後也快適に「自分らしく当たり前」に生活できる「ように努めたい」と思います。その為にもそこで生活される方々からの想いや話を聞き、どのように生活に反映していく事が出来るかとミーティングを通して意見交換を行っています。利用者さんにとっての「ホーム」家になっていく事を今後も目指していきます。

今後ともご助言・ご協力をよろしくお願い致します。



## つくしんぼレクリエーション イン 阿蘇ミルク牧場

レクリエーション委員 上田 洋美

一〇月二十五日(土)、つくしんぼ全体でのレクリエーションが行われました。

全体でのレクリエーションは八か所すべてのグループホーム利用者の方が参加されるつくしんぼのビックイイベントです。

レク担当委員で事前に候補先をいくつかピックアップしていき、利用者さん皆さんに行きたいところを選んで頂きました。

行先は断トツ人気で阿蘇ミルク牧場に決定！

当日は二五名の利用者さんにご参加いただき職員、世話人さんやボランティアの皆様総勢四五名もの大人数で出発しました。

ミルク牧場に到着してからは小グループに分かれて牧場内のヤギや羊にエサやり体験をしたり、いろいろな種類の牛や馬、烏骨鶏などを見て回りました。

そして待望のバイキングレストランマザーズキッチンでは牧場ならではの乳製品のメニューが豊富でお肉や熊本県産野菜のお惣菜も色々あり、みなさんおしゃべりを楽しみながらお腹いっぱい美味しく

しいランチに舌鼓を打ってありました。

ミルク牧場では「私は牛乳を飲む！」とずっと楽しみにしていたYさん、エサやり体験ではグイグイ間近に迫ってくるヤギや羊にちょっと戸惑い、ドキドキされながらも笑顔でエサをあげていたKさん、バイキングで唐揚げを山盛りでおかわりし嬉しそうなお二人、普段ホームでお会いしたりお話ししたりしている様子とはまた違う表情でみなさんそれぞれに楽しまれてあり、私たち職員にとっても本当に楽しい一日となりました。

当日は色々なハブニングも起こり、課題や反省点なども多々あるのですが来年も利用者さん皆さんに楽しんで頂けるワクワクするレクリエーションを企画していきたいと思えます。





# ひかりの森

## 働くということは、 どういうことなのか？

児童指導員 城野 俊行

放課後等デイサービスで働き出して、早半年がたちました。ここに就職する前、半年間は、他の放課後等デイの送迎を担当していて、さまざまな発達障害の子どもたちと関わりました。発達障害の子どもの中には、大蛇山の音頭が大好きで、子どもと二人で送迎の道中は楽しく遊びながら車を走らせていました。その中で、学んだことは子どもたちの中にある「純粹なもの、輝くもの」を大事にしたいということでした。大人になると、なぜ心が薄汚れていくのか？嘘をついて人を裏切っていくのか？

私には、つらく悲しい世の中のように見えてしまうがありませんでした。若いころから、在日朝鮮人・被差別部落・障害者解放運動等へ関わっていました。私には「発達障害の子どもたち」との関わりが希薄だったなど、思い返しました。退職

した友人たちは、公民館活動などで、リタイアしたのちの余生を、自らの楽しみにして時間をつぶしている人が多くいます。

しかし、私は、考えに考えた末、生涯に渡って「現役」で過ごそうと考えました。

心不全・高脂血症・慢性腎臓病・リウマチ性多発筋痛症・高血圧症・前立腺肥大症・腎結石・腰痛などの病気を抱えたまままで働くのは心配ですが、「あんた大丈夫と？」の妻の問いかけも無視して、大牟田市内放課後デイの最高齢職員として働いています。

私は、「子どもはキライだ。」と広言をしている割には、本当は「子どもが好きです。」私はスノッブだから、妻にしかられてもらえませんが、アダルトチルドレンでDVの中で育った私は、私自身のアイデンティティーを確立するために、五〇年以上の歳月がかかりました。それほど、乳幼児期・幼年期・学齢期の子どもへの発達には「大人の世界」の理解が必要です。その「大人の世界」は柔軟でしなやかで、子どもたちの意見表明を丁寧に聞くことが大事になってきます。まず、子どもを好きで、子どもの意見を大切に聞くことのできる人、子どもの心を削らないで伸ばしていく人、そのような

「同伴者」の大人が必要です。

ひかりの森の放課後デイができて、私が一番大事にしていることは、「職場の仲間づくり」と「民主的に話し合いができる職場の雰囲気づくり」です。自分たちが解放された空間にいないのに、きちんと子どもたちとつきあうことはできません。人間は顔かたちがちがうように、一人一人の個性がちがいます。職場の人間の一人一人の持ち味を引き出して、子どもたちと付き合いつながり、子どもと共に、自分自身も成長していけるように、日々を過ごしています。それが神様から与えられた私の「魂の修業」です。

### 日本一の放課後等デイサービスを 目指すには……

少子高齢化社会の影響を受けて、これからの放課後デイはかなりの数が淘汰されていきます。しかし、文科省の統計によると、児童生徒の八・八%くらいは、「発達障害」の子どもたちが存在するということです。今まで、ちょっと変わった子ども、少し個性的な子どもとも言われていた子どもたちが、「発達障害」という名のもとに、ひとくくりにされて、いろいろな機関に通う現実があります。インクルーシブ教育の観点

からは、それはいかがなものかと  
思う反面、放課後デイに通う子ども  
たちには、やはり療育の観点から、  
素晴らしい内容を提供しなければ  
ならないと強く思います。

そのためには、まずは環境が大事  
です。ひかりの森には素敵な環境が  
あります。四季折々に姿を変える樹  
木の中の遊具つきの公園、入浴がで  
きる浴槽、おいしい給食が提供でき  
る食堂等々があります。そして、な  
によりも豊かな人材がそろってい  
るのがひかりの森です。来年、二単  
位になります。発達途上の伸びしろ  
のあるひかりの森に乞うご期待く  
ださい。



たんぽぽなごんぽくまつだ

■寄付金(一般、建設募金、友の会)

阿津坂 秀人、浦田 ふさ子、江口 秀雄、江寄 アツ子、社会保険 大牟田天領病院、青山 好子、大久保 雅子、大牟田フレンドシップキリスト教会、大牟田めぐみ教会、大牟田母と女性職員の家、大牟田防災工業株式会社、天の原校区まちづくり協議会、くずめよし、叶義文、叶郷子、金子 敬・知子、古賀敬之、後藤 洋子、社会福祉法人恵愛会、北岡 敏郎、有限会社三光産業、所方 敏彦、柴田 宏子、志田 梓、境 美智子、関戸 五枝、セルプちくほ、高石 律子、玉川校区まちづくり協議会、医療法人 友永医院、谷山 雅子、津村 龍彦、豊蔵 広泰、日本ナザレン教団小倉教会、株式会社西日本医療センター、永松 伸次、納富 直樹、中村 千枝香、直人、長岡 和子、永野 紘行、社会福祉法人福岡コロニー、福島ヒサ子、三浦 紀子、眞柄 光久、三池工業高校 校長山口博充、麦野 賦、森 雅司、大和南北地区民生委員児童委員協議会、吉田 清美、渡邊 一弘、和田 緑

■たんぽぽへ寄付金

田中 広美

■献品

叶郷子、光の子幼稚園

※順不同敬称略

二〇二五年八月一日

二〇二五年十一月三十日

恵愛友の会会員募集!!

「障害者福祉」の益々の充実を願いつつ、ともに歩み支えていただける会員を募集しております。

一般会員	一口	500円/月
特別会員	一口	1,000円/月
賛助会員	一口	300円/月
団体会員	一口	10,000円/月

※一人でも多くの人に会員になっていただきたいと願っております。どうぞよろしく願い致します。

献金申込送金先

社会福祉法人 キリスト者奉仕会

〒836-0895  
福岡県大牟田市新勝立町3丁目5番地15  
大牟田恵愛園 0944-51-8750

《銀行振込》 福岡銀行 大牟田支店  
普通 2512469

《郵便振込》 郵便振替 01780 - 3 - 38380

※この献金は福祉事業活動のために活用させていただきます  
※郵便振込用紙を入れていただきますので、献金される方はご利用下さい。

ふれあい講演会

日程 2026年2月21日(土)

会場 大牟田文化会館 小ホール

時間 13:20 ~ 16:50

内容 特別講演 藤井 克徳 (日本障害者協議会 代表)

～だれもが地域で自分らしく暮らせる社会をめざして～

〈パネルディスカッション〉

コーディネーター

キリスト者奉仕会理事長 全国社会就労センター協議会(セルプ協) 叶 義文  
パネラー

大牟田市副市長 中村 珠美

(社福)甘木山学園子ども家庭支援センターあまぎやま センター長 坂口 明夫

大牟田市障害者協議会 有松 由里子

たんぽぽ・恵愛ワークセンター 施設長 谷山 恵一

手話通訳  
要約筆記  
あり

母子室  
あり

入場無料

事前申し込みはQRコードにてお願いします。

